

U-18 Men's National Team Friendship Games in Chinese Taipei REPORT

報告者名：佐藤 誠 [千葉県]

遠征期間：2008年3月29日(土)～4月3日(木) [6日間]

訪問地：台湾 [台北市]

宿泊先：Santos Hotel [三徳大飯店]

Game Report & Comments

[29th.Mar.]

Time	Program	Place
10:25	Departure	Narita Airport
13:40	Arrived	Taoyuan Airport
14:00-14:50	Move to Hotel	Santos Hotel
15:20-16:00	Exercise	
18:00	Dinner	

[30th.Mar.]

Time	Program	Place
7:00- 8:00	Breakfast	Song shan HighSchool
9:00-10:40	Exercise	
12:00	Lunch	Yulon gym
14:10-15:45	Game	
17:00	Dinner	

@ 裕隆体育館

TEAM	1st	2nd	3rd	4th	total
JAPAN (U-18)	31	30	27	26	114
能仁家商	19	14	13	29	75

Ref : Makoto Sato (JPN-Accompany) Ump : Lee , hsiao- yo (ROC-Domestic)

[31st..Mar.]

Time	Program	Place
7:15	Breakfast	Song shan HighSchool
9:00-10:20	Exercise	
11:00-	Lunch	Yulon gym
14:00-15:40	Game	
16:00-17:00	Dinner	

@ 裕隆体育館

TEAM	1st	2nd	3rd	4th	total
JAPAN (U-18)	30	30	36	32	128
東呉大学	22	23	25	18	88

Ref : Makoto Sato (JPN-Accompany) Ump : WU , Chin-chieh (ROC-Domestic)

[1st.Apr.]

Time	Program	Place
7:15	Breakfast	Song shan HighSchool
10:00-11:00	Game(10 × 2)	
10:50-11:45	Lunch	
15:00-16:30	Game	
17:00	Dinner	

@ 松山高級中学

TEAM	1st	2nd	3rd	4th	total
JAPAN (U-18)	25	30	17	33	105
松山高級中学	24	12	18	9	63

Ref : Makoto Sato (JPN-Accompany)

Ump1 : SHU ,fei-hsieh ROC-Domestic)Ump 2 : CHANG ,Wei-Jun (ROC-Domestic)

[2nd.Apr.]

Time	Program	Place
7:30	Breakfast	Yulon gym
9:30-10:20	Exercise	
11:30-12:15	Lunch	
16:30-18:00	Game	
18:00	Dinner	

@ 裕隆体育館

TEAM	1st	2nd	3rd	4th	total
JAPAN (U-18)	28	15	29	32	104
南山高校	18	10	13	22	63

Ref : Makoto Sato (JPN-Accompany) Ump : HU , cheng-ming (ROC-Domestic)

[3rd.Apr.]

Time	Program	Place
7:00-8:10	Move to Taoyuan Airport	Taoyuan Airport Narita Airport
10:20	Departure	
14:32	Arrived	

3/26(水)~28(金)の期間、ナショナルトレーニングセンターにおいて強化合宿を行い、3/27(木)青山学院大学、3/28(金)明治大学と練習試合を行いました。

明治大学との練習試合では、審判を担当し、選手の特徴やチームの特徴を観察しつつ、選手、スタッフの方々とコミュニケーションをとりながら台湾遠征へ出発しました。

この強化合宿及び遠征は、U-18男子アジア選手権大会の東アジアゾーン予選、並びにFIBAアジアU-18バスケットボール選手権大会へ向けた強化活動であり、国際大会等の経験が少ない選手もいる中で、また、短期間でチームを作り上げなければならないという点で非常に重要な合宿、遠征と位置づけられていました。

さて、台湾では、能仁家商、東呉大学・松山高級中学、南山高校、4試合を担当し、対戦した台湾の高校は全てBEST4のチームで、中でも、南山高校は、台湾1のチームであり、沖縄カップにも出場した強豪校でした。

試合内容としては、谷口大智(洛南)、永吉佑也(延岡学園)を中心に、成長著しい、皆川徹(安行中)、シューターの狩野祐介(福岡第一)、館山健太(能代工)、フォワード、比江島慎(洛南)、早川ジミー(福岡第一)、ガード、石川海斗(明成)、高橋陽(能代工)、内外ともにバランスのいいメンバー構成です。

センター陣もしっかりと走れるし、早いパッシングからの1on1、合わせと、身長さを補うように40分間、スピーディーにバスケットを展開していました。交代してもチーム力が大きく変わらないのも、このチームのよいところだと思います。

午前中の練習では、チーム内での約束事の確認、午後はゲーム、夜は、トレーニングをしている選手もいましたし、ミーティングでは、他のプレイヤーへの意見やチームとしての方向性を確認するなど、コート上はもちろんのこと、それ以外の時間においても、日本のトッププレイヤーとしての自覚と責任の下に、各選手とも精力的に活動する姿を目にし、新しい日本の“光”のようなものを感じました。また、国際経験の少ない選手たちにとっては、ハードスケジュールの中で最高のパフォーマンスを維持する難しさを経験出来たよい遠征であったと思います。

私自身、ここ2、3年、海外での研修や帯同遠征等、貴重な経験させていただく中で、異文化、悪環境でのコンディション作り、コミュニケーションを含め、その難しさを痛感しておりました。以前は、このことに加え、自分の判定基準や審判技術について不安材料が多かったのも事実でしたが、このような経験を通じて、日本にいる環境と同じように審判をすることが、少しではありますが出来るようになってきました。

このことは、私にとって大きな財産となり、日本での審判活動において、大きくプラスになり自信につながっています。

最後になりますが、派遣に際してご尽力いただきました、橋本部長はじめ、日本バスケットボール協会に感謝申し上げます。

また、大変温かく親切にいただきました、U-18のコーチ陣、コンディションにご配慮いただきました、トレーナーの星川さんに対し、心よりお礼申し上げます。

無事に怪我人もなく、責務を果し、チームも成果を挙げて終了出来ました事、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

この貴重な経験を今後の審判活動に活かしていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。